



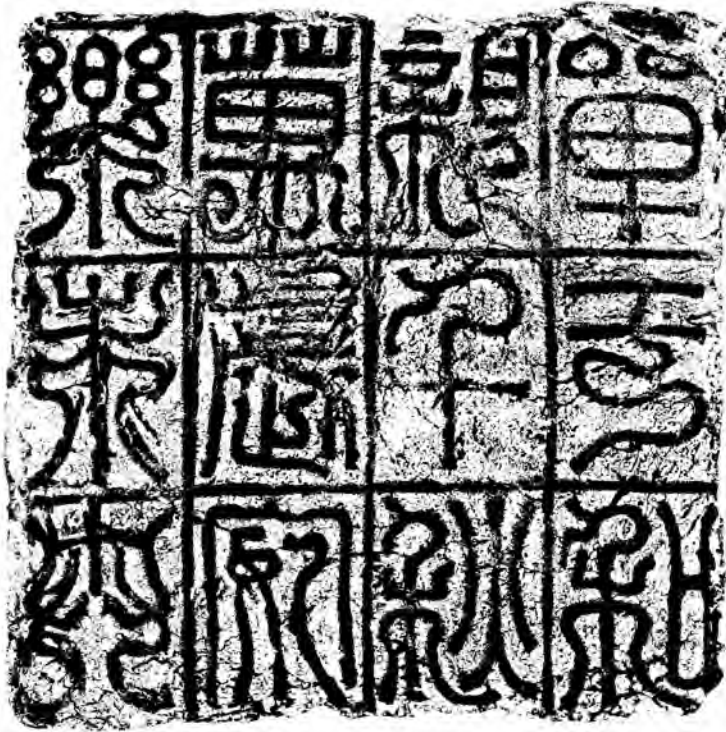
单于和

親千秋

万歳安

樂未央





「秦漢時代の瓦当と磚文」  
⑨「単于和親」磚

図版④ 原磚写真



図版② 字磚博物館



今月から磚に刻された文字の面白さを取り上げていきます。磚とは、「磚」とも書きます。意味は、現在でも使用されているレンガ(煉瓦)です。古代に置いても建築材料として多く使用され、文字が刻された煉瓦は、墓室や祠堂などの地下室用に用いられたようです。近年の中国では、開発にとまない多くの古代の煉瓦が出土しています。書法や古代文字に関心のある中国の友人の中には、千件余りの磚を所蔵している人もいます。また専門に研究蒐集して、「明止堂・中国字磚陳列館」(図②)を開いた人もいます。右頁に示したのは、三十センチ四方の方形の大型磚です。縦三字、四行に、「単于和親千秋万歳安楽未央」の文字が刻されています。文の内容は、漢時代に北方民族の匈奴と漢王朝が講和したときの記念碑的な意味でしょう。書体は、瓦当と同じく篆書体で、やや縦長の平面に目一杯に布置されています。拓本では、文字が白いですから、文字の字画は陰刻で、低いはずですが、各種の資料を調べると拓本でなく、図版④のような「単于和親」磚の原物写真を見ることが出来ます。この磚は、瓦当文のように陽刻です。図版に示した拓本と比較すると、拓本は文字が裏返って反転しています。拓本画像を反転(図③)すると、原磚の様な文字配置になり、まるで鋳型から作り出された原磚を拓したような図版に仕上がりました。右頁の拓本は、「単于和親」磚を制作するための鋳型(模範)を拓したものと考えられます。伊藤滋(書齋名・木鷄室)

# 書道芸術院

## 平成の群像 (2017)



天海 矩子

### 「二人の師と かな書道」

私には、無関係だと思っていた原稿依頼に戸惑いながらも、顧みれば下谷東雲先生に通算で22年程、続いて下谷洋子先生にも22年の長きにわたりご指導いただいている。東雲先生との出会いは高校へ入学して芸術科目で書道を選択し、クラブ活動も書道部へ入部した時からだった。先生からは特

に古筆の臨書をたくさんご指導いただき、細字、中字と進み書道展へ出品していたように思う。そんな中、群馬県展では高校3年生から2年連続で知事賞受賞ができたこともあり、当時は楽しいだけでこれ程長く続けるとは夢にも思わなかった。

その後結婚し、東雲先生とは距離的に遠くなったため子育てに専念していた頃、懐かしい先生から復活をと懇切丁寧なお誘いのお便りがご縁で今に至る。こうしてかな書道に係っていただける様に導いて下さり、改めて感謝せずにはいられない。

お手本をいただき書いていた頃は「かなの難しさ」が解らずにいたが、自分で作品を作るようになってからは、それを痛切に思う。和歌、俳句等を題材にする上で、それらがいくらか良くても作品には向いていなかったり漢字とかなのバランス、散らし方、変体かなを効果的に使用、料紙と墨色の関係等々で試行錯誤する。

「書は人なり」とよく言われる。最後はやはり人間性、内面に尽きるような気がする。どの部門でも作品を仕上げるまでは同じと思う。しかし、日本で生まれたかな文字に係る分野で学べていることは、日本人として嬉しく幸福に思う。道はまだまだ半ばであるが師の良きご指導のもと、無我夢中で走り続けてきた。体力的にはもう少しは走れそうに思うので、下谷先生はじめ諸先生方もう暫くのご指導をよろしく、お願いいたします。



「春の野」 書道芸術院展出品

天海矩子書



# 書のひろば

理事長 辻元大雲

## 書道芸術院創立70周年記念 役員作品巡回展・北陸支局展開催

巡回展開催9会場目となる北陸高岡会場は7月28日～30日まで、高岡文化ホールを会場に開催され、29日(土)午前10時半より会場にて作品解説会を理事長より全般を、常務理事下谷洋子、担当理事金井如水、小浜大明、地元田守光昭実行委員長、津田海仙各氏が各部の特色などを解説した。午後1時よりホテルニューオータニにて地元ご来賓をお招きして祝賀懇親会が盛大に開催された。

翌30日午前には書径舎学生展の表彰式に後援団体として理事長、金井、小浜各理事参列、授与と共に祝辞も述べさせていただいた。

表彰式終了後、会場にて席上揮毫会を行った。小浜大明理事は「日進月歩」を大作表現、意欲溢れる揮毫であった。金井如水理事は前衛書の鑑賞理解のためにパターンを変えて2作大作を揮毫、色彩を交えての表現は斬新で参観者の反響も大きかった。私は即興で「二上は筆華の舞いに夏めきて」と当地のシンボル「二上山」を詠みこんだ句を3×6尺に揮毫、皆様から大きな拍手をいただき感謝。



席上揮毫

## 書道芸術院創立70周年記念 役員作品巡回展 北日本支局展開催

続いて8月6日～11日、青森市民美術展示館にて北日本支局巡回展が開催され、初日20日午後1時より作品解説会が理事長、下谷洋子・板垣洞仙担当理事のほか、小竹石雲・後藤大峰常務理事、富山から津田海仙、大石仙岳両氏、地元坂本素雪実行委員長などにより会場内にて行われた。会場は全館使用で3階まで見やすい展示で好評であった。折しも青森ねぶた祭りの最中で賑やかな雰囲気包まれた。

また3時から地元青森市長はじめご来賓各位をお招きして祝賀懇親会がリッチモンドホテルにて、夕刻よりのねぶた祭りに時間を調整して開催、大いに意気が上がった。地元実行委員会のご配慮で青森ねぶた祭りをホテル前の特等機敷席にて観覧、本場の情熱的

な祭りを堪能させていただいたことは望外の益を賜り感謝。

今後9月13日～18日、関西総局展が大阪市立美術館、9月26日～29日、北海道支局展が札幌ギャラリー大通美術館、10月3日～8日、東京総局展が秋季展と同じ紙パルプ会館2階銀座フェニックスプラザ、最後は11月2日～5日、鳥取県倉吉博物館にて山陰支局展と巡回展示される。ご支援ご協力をお願いしたい。



作品解説会

## 創立70周年記念書道芸術院オーストリア・ウィーン展訪問団結成

10月18日～25日まで、オーストリア・ウィーン市で開催する。会場はウィーン市内のヘルナス区市民大学。市民大との共催にて、オーストリア日本大使館の全面的なご支援をいただき開催する。併せて「第20回記念 国際交流

ウィーン書道展」が日本大使館広報文化センターを会場に開催され、両会場とも席上揮毫、市民対象のワークショップなどが計画されている。

訪問団は総団長辻元大雲、団長谷脇梅翠、副団長下谷洋子、本部団員板垣洞仙・川島舟錦、前田龍雲、顧問として評論家麻生泰久、毎日書道会顧問糸賀靖夫、毎日新聞学芸部記者桐山正寿の各氏に参加していただくことになっている。作業部隊として藤和額装の安藤敏行氏も同行していただく。

団は3班構成で、小竹石雲班長以下25名、板垣洞仙班長21名が前半10月17日～22日に訪問。後半10月23日～28日、後藤大峰班長以下10名が参加される。総勢59名の参加となった。

担当旅行社は毎日新聞旅行(主担当堂本暁生)

## 書道芸術院単位認定長野講習会

8月26・27日、長野県上諏訪温泉浜の湯を会場に開催された。

受講生116名、役員合わせ150名余で、例年通り実技講習(漢字・かな・現代詩文書・篆刻刻字・前衛書)、更に書写教育の実技を含めた講座、一般教養として「原拓書道史」、「書道芸術院史」まで、2日間充実した内容の濃い講習会であった。諏訪湖のほとり、風光明媚な地に位置する講習会場は、地元小浜大明主管の運営指揮により、細部にも心配りされ受講生は大満足の講習会であった。(次号にて詳細報告)

# 現代詩文書 (六)

山田 梓江

「和魂漢才」とは、中国伝来の学問や知識を消化し活用することは大事ですが、日本古来の精神を失ってはならないとの意です。

現代社会においては、急速な文明科学の発達により世界各国の情報が得られ便利になり、良い事も悪い事までも機械に任せてしまう時代。昔では考えられない事件が多発するのも、自分で

考える人間本来の能力が消えていっているからではないかと思えます。書の道を歩む者として、機械に支配されず自分の心を自分の手や体で表現出来る書道の素晴らしさを伝えたいのですが、年齢的に時間があまりないので、若い人に「頑張れコール」を送り託したいと思います。

今回最後の主張として、時々、「和魂漢才」を嘯みしめなければならぬと思ひ掲載させていただきました。

謙虚さ、優しさ、我慢強さ、譲り合いやおもてなしの精神、そして礼儀作法、敬語の使い方、品性など、世界に誇れる魂や風習などが日本人のDNAには刻まれている筈です。それを子供達に、是非伝えていただくことを提案して終わります。



「和のこころ」

山田梓江書

## 21世紀の書

### —私の主張—

# 篆刻・刻字 (六)

清水翠径

最近、後期高齢者の保険証が届き、我が人生を振り返る機会を得た。思い起こせば、軽い気持ちで、宮澤梅径師の門戸を叩き、お習字の手ほどきを、受ける事になったのが37年前。先達の立場であられた、師宮澤梅径先生の薫陶をいただき、刻字の世界に足を踏み込む事になった。

寝食を忘れ、打ち込む事ができたのも若さの成せる技と思う。先輩である故酒井碧雲先生、故鳥原春峰先生方と競い合い、拙作にもかかわらず展覧会出品。師の「展覧会に出品して、他の人の作品を観る事も一番の勉強」

の言葉で、数多くの展覧会出品を経験し現在に至るが、新しい展覧会の度に新しい表現の刻字作品との巡り合いに、感動させられる。

親から生命を、師から生き甲斐を、授けられた37年、趣味に明け暮れた我が人生の、幸福なる経過に感謝の念を抱くのみ。筆意を刀意で表現すれば無我夢中で過した刻字道、未だどうすれば筆意の表現ができるのか、定義づける事ができない苛立ちで一作一作試行錯誤する日々です。

取り留めの無い記述となりました。6ヶ月にわたりお目通しいただき、誠にありがとうございます。



「時 現狀維持退歩也」

清水翠径刻

# 毎

特集

## 第69回毎日書道展

文部科学大臣賞



辻元大雲

さまざまなき縁をいただいて

この度思いもかけず文部科学大臣賞という栄誉を賜り、ただただ驚いております。50回展の折の故種谷扇舟先生、2年前67回展での下谷洋子さんに続き、本院として3人目となりましたが、果たして栄誉に値するのかと不安に駆られたことでもありました。受賞決定の第一報は毎日書道会朝比奈豊理事長直々のお電話で、本当にびっくりでした。いずれにしましても高い栄誉を賜りましたことに心より厚くお礼申し上げます。

受賞作は色々な思いの籠る作でありました。選歌は故久方壽満子さんの遺された雄大な自然の情景を詠んだ短歌で、本年の毎日書道展の出品作はこれだと早くから決めていたものです。101歳の長寿を全うされた先生の歌の素晴らしさにほれ込んで、また追悼の気持ちも込めて制作したものです。更に使用した画仙紙は畏友故村山元信さん(享年62)の遺された約40年前の、少しシミが浮いている二双本画仙紙を、これも村山さんの遺志を生かすべく、心して選びました。お二人への追悼の気持ちが作品に反映したのでしょうか。有難い縁を感じざるを得ません。

また、授与者の松野博一文部科学大臣は私が勤務していた千葉県立木更津高校で1年生の折の担任した教え子であり、授賞式当日に大臣ご本人から賜るといふ前代未聞の奇遇も重なり、二重三重の喜びでありました。

多くの皆様に支えられての今回の受賞に心よりお礼申し上げます。



近代詩文書 辻元大雲

# 第69回毎日書道展総評

## 辻元大雲

第69回毎日書道展は2月の運営委員

会でスタート、本院役員、会員が各部

担当など幅広く活躍し、多大な貢献を

していただいた。4月中旬の事務局合

同会議、5月下旬の鑑別、6月下旬の

審査、会員賞選考など順調に進行した。

総出品点数は前年より約690点減となり、

減少傾向に歯止めがかからなかったの

は残念であった。

今回展では運営委員として大字書部

大野祥雲、前衛書部板垣洞仙の各氏、

会員賞選考委員に辻元大雲、下谷洋子

のほか漢字部最首翠風、前衛書部津田

海仙の各氏が本院より担当した。当番

審査員は既報の通り。

出品全作品中より選考される文部科

学大臣賞には図らずも辻元大雲が近代

詩文書作品で受賞、会員賞が惜しくも

該当なしという寂しさを補うこととなっ

た。2年前下谷洋子本院常務理事の受

賞に続く榮譽をいただいた。故久方壽

満子さんの浅間山の雄大なパノラマを  
詠んだ短歌「一塊の雲を遊ばせ浅間嶺  
は泰然として國原に立つ」を2×6尺  
横形式に表現した作であったが僥倖に  
恵まれた。

今回は特別企画展示が見送られ、来  
年70回記念展での企画が期待されるこ  
ととなった。70回記念展では明治以降、  
第2次大戦までの近世名家の作品を中  
心とした「墨魂の昇」が企画準備中で  
あり大いに期待したい。

展覧会は国立新美術館にて7月12日  
～8月6日まで、会友以上の全作品と  
公募・U23の全入賞作品が、前期（漢  
字・大字・篆刻・刻字）Ⅰ・Ⅱ期、後  
期（かな・近詩・前衛）Ⅰ・Ⅱ期と展  
示替えしながら開催され、東京都美術  
館では7月19日～25日まで、理事監事  
の2作目、東京展関係公募・U23の入  
選作品が展示された。東京展以降全国  
9会場にて地方展が開催されることにな  
っている。

- ・マイドームおおさか
- ・北陸展 8月20日～24日
- ・富山県民会館
- ・中国展 8月22日～27日
- ・広島県立美術館
- ・四国展
- ・8月23日～27日
- ・愛媛県美術館
- ・九州展
- ・9月19日～24日
- ・大分県立美術館
- ・北海道展
- ・9月27日～10月1日
- ・大丸藤井・札幌市民
- ・ギャラリー
- ・東北仙台展
- ・10月13日～18日
- ・せんだいメディアアテ
- ・ク
- ・東北山形展
- ・10月18日～22日
- ・山形美術館

- ・東海展 8月15日～20日
- ・名古屋市博物館・名古屋市民G栄
- ・関西展 8月16日～20日

各開催地では作品展  
示とともに顕彰式、祝  
賀会、作品解説会、揮

毫会などがそれぞれの地区の特色を発  
揮した内容で展開される予定である。  
各開催地での本院会員諸氏が活躍され、  
大いに貢献されていることも感謝申し  
上げ総評としたい。

### 第69回展出品数

書道芸術院	漢字		かな		近代 詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
本年度	215	216	135	149	488	217	0	62	401	1,883
前年	207	195	118	157	527	215	0	75	458	1,952
増減	8	21	17	-8	-39	2	0	-13	-57	-69

### 第69回展書道芸術院受賞者数

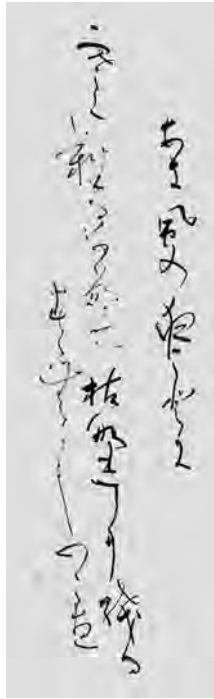
賞名	漢字		かな		近代 詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
文部科学大臣賞					1					1
毎日賞	3	0	1	1	3	2		1	2	13
秀作賞	3	3	3	2	7	4		1	7	30
佳作賞	5	7	6	3	14	7		2	14	58
U23毎日賞			1							1
U23新鋭賞					1					1
U23奨励賞					1					1
合計	11	10	11	6	27	13		4	23	105



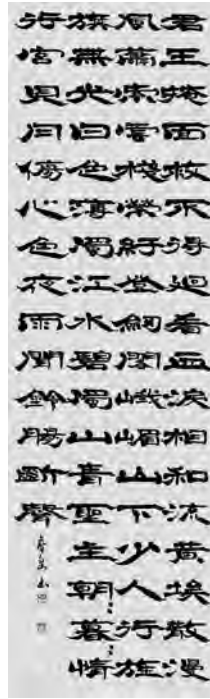
毎日賞



近代詩文書部 千田春月



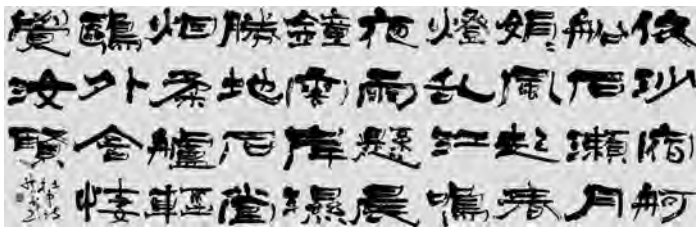
かな部Ⅱ類 藤原三枝子



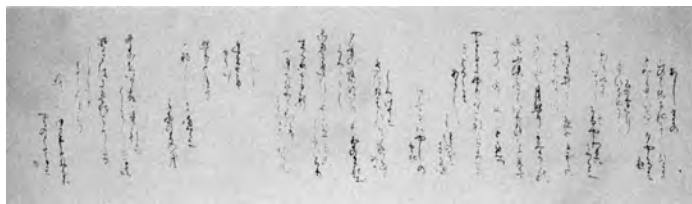
漢字部Ⅰ類 宮崎春泉



漢字部Ⅰ類 一森琴映



漢字部Ⅰ類 佐伯哲哉



かな部Ⅰ類 京 絹子



近代詩文書部 上野千琇



毎日賞

前衛書部  
佐藤成美



大字書部  
藤原小翠



大字書部  
朝倉希代子

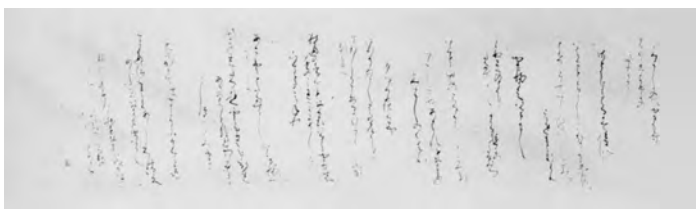


近代詩文書部  
佐々木 一峰



刻字部  
佐々木 瞬心

U23毎日賞



かな部I類  
大崎 友里絵

前衛書部  
阿部雅悠



秀作賞受賞者

佳作賞受賞者

・漢字部 (I類)

谷田昭翠 藤原皓白 森田藤谷

・漢字部 (II類)

小泉潤 土屋聖峰 富原扇水

・かな部 (I類)

栗原信子 西巻サト子 松本泰泉

・かな部 (II類)

塩澤美紅 利村郁子

・近代詩文書部

金濱珀燁 菊田杏仙 桐岡銘紀  
坂本蒼花 佐藤華炎 佐藤光耀  
篠原楊流

・刻字部

葛西楊舟

・大字書部

伊藤明秋 木下玲窓 長峰万扇  
吉田小碧

・前衛書部

相内珠莉 浅見由紀子 阿部邑里  
石黒和喜 廣瀬幸枝 伏津玲子  
藤原紅雲

・漢字部 (I類)

石川溪華 板橋雅邦 佐藤米珠  
竹浪叙舟 平野笛舟

・漢字部 (II類)

青木藤漣 伊藤里祥 金子美千  
庄司紫千 高橋峻扇 布施瑞弘  
三沢明扇

・かな部 (I類)

逸見玲子 今関心華 小林純風  
角田公子 都丸みどり 治田芳江

・かな部 (II類)

新谷風泉 飯島律子 真下美佐代

・近代詩文書部

岩崎陽光 白井真理 大西香蘭  
岡崎翠園 奥川麗流 小野寺加都  
神本星流 神谷雲卿 工藤幸基  
栗原由紀 竹内彩苑 前田花峰  
松村秀扇 吉川素香

・刻字部

赤羽蘭徑 鈴木香風

・大字書部

新 爽風 荒川空華 清遠 瑞  
坪井明壽 永井明香 永見史篁  
松村美保

・前衛書部

安藤楊風 岩上郁子 宇都宮趙辰  
大友紅蓉 工藤山房 佐藤陽子  
高島孝仙 田村紅沙 富澤理恵子  
長澤紅苑 名取雅子 原島春汀  
丸橋華葉 山崎 恵

U 23 新鋭賞

・近代詩文書部

内村真樹

U 23 奨励賞

・近代詩文書部

茂木綺水



毎日書道展 表彰式風景



毎日書道展 展覧会風景



毎日書道展 文部科学大臣賞受賞

# 書道芸術院創立70周年記念

## 役員作品巡回展

併催 四国支局展

会期 平成29年7月11日(火)～16日(日)  
会場 高知市文化プラザかるぼーと

実行委員長 (四国支局長)

大野 祥雲

梅雨明け間近の南国土佐。巡回展はまぶしい太陽が照りつける中で開催となりました。

天井が高く解放感いっぱい会場に役員の方の作品51点と四国支局会員の作品70点を展示。高所作業車を使っているの展示もありましたが、地元業者の協力もいただき、無事お昼までに終了することができました。

15日(日)には、辻元大雲理事長はじめ7名の役員の方をお迎えし、作品解説会、揮毫会を行いました。5年前に大好評だった揮毫会は、心待ちにしていた方も多く、朝から問い合わせの電話が鳴るほどで、地元の皆様の熱を感じることができました。快く揮毫をお引き受けくださいました辻元大雲理事長、下谷洋子・小竹石雲常務理事、小林琴水・千葉蒼玄・名越蒼竹理事の各先生方に、この場をお借りしましてあらためて感謝を申し上げます。

△作品解説会▽  
辻元理事長より次のような院史のお話がありました。「昭和22年11月23日趣意書に示された通り芸術の自由を叫び敗戦後の混乱の中から芸術家の心を持って誕生。その後離合集散を繰り返しながらも創立精神を尊び、自由で革新的なもの、新しい感覚、表現を目指し年々発展してきた。香川峰雲・春蘭中島邑水、加藤翠柳、種谷扇舟各先生等の献身的なご努力によって着々と5部門の総合団体としての地歩を築いて下さり、恩地、村野、小伏、袖口各先生他諸先生方のご尽力の賜物である。私達は力強く引継がねばならない。」その後、下谷・小竹常務理事、小林・千葉理事より作品について説明をいただきました。現代的に表現を。品格を大切に。余白を美しく。線が命。感動を与える。会場に集った者の心に響く解説会でした。

△揮毫会▽  
巡回展のメインイベント「揮毫会」には、200人を超す参加者で開会前から会場は熱気で溢れていました。揮毫会の前座として、高知の朝倉希代子・大山和歌子の2名がダイナミックな揮毫を披露しました。その後、書道芸術院本部役員6名の先生が、それぞれ優れた持ち味を発揮され、すばらしい腕前を見せて下さいました。なかでも、高知では研究不足の「前衛書」について千葉蒼玄先生から説明があり、すばらしい実技に参加者は食いつくように参観していました。

揮毫会の締めくくりは、辻元大雲理事長が俳句を即興で詠まれ、現代詩文の作品に仕上げました。「筆山は土佐の精神ぞ梅雨空けぬ」みごとな句と筆に万雷の拍手が続くなかで揮毫会は終了しました。

### △懇親会▽

7月16日の夜の会、昼間の講演、席書の熱気そのままに、ご馳走を前に疲れを吹き飛ばす会になりました。大野祥雲四国支局長の音頭で始まり、辻元大雲理事長の滋味あふれるご挨拶を頂きました。明日を担う若き支局員全員の躍動を称えて下さり意を強くすること大でした。ご来賓の毎日新聞高知支局長、幽玄斎、湖筆堂、弘文印刷の各社長様、本会役員の方、理事長はじめ下谷洋子、小竹石雲、小林琴水、千葉蒼玄、名越蒼竹、前田龍雲の先生方、まさに躍進する書道芸術院の盤石の将来を約束するものであります。筆のみならず喉のすばらしさ、体全体でのパフォーマンス、まさに芸術を追求する高次元での演出そのものでした。四国支局員一同この上ない感謝感激をいただきました。

会期中、約700名の方に足を運んでいただき、役員作品巡回展併催四国支局展は閉幕となりました。ご協力をいただきました。ありがとうございます。

川村美泉・濱田尚川  
依岡紫峰・唐岩翠水記



会場の懸垂幕



小林琴水先生による揮毫



下谷洋子先生による作品解説





名越蒼竹先生による揮毫



小竹石雲先生による揮毫



千葉蒼玄先生による揮毫



下谷洋子先生による揮毫



揮毫していただいた作品を展示



辻元大雲理事長による揮毫



文部科学大臣賞を受賞された辻元理事長に花束贈呈



四国支局会員作品から「辻元大雲の目」(5点)を選定中の辻元理事長

# 書道芸術院創立70周年記念

## 役員作品巡回展

併催 甲信越支局展

会期 平成29年7月20日(木)～23日(日)  
会場 長野県伊那文化会館

実行委員長(甲信越支局長)

小浜 大明

書道芸術院創立70周年記念展は7月20日(木)から23日(日)まで、長野県伊那文化会館で地元作品(無鑑査以上)を併せて展示し開催された。折しも梅雨明けが発表され直後のこと、涼しめはずの信州であるが、異常気象の影響で猛暑日となった。各地からおいでいただいた先生方もその暑さに閉口気味、東京より暑いのではと口々に話される程であった。

7月20日(木)の朝9時から陳列をはじめ午後1時オープンということで、それまでに終了するのかが気になかったが、小林古径陳列部長の段取りの良い計画にもとづき、正午には終了した。大半が書道芸術院展出品作品をそのまま陳列したが、院展会期中上京できなかった人や、近隣の皆さんにも見ていただくことが出来、結果良かったと考えている。地元作品は約100点の展示となり、前回展より大幅に増加した。午後1時からのオープンを待たず参

観者があり、加えて地元の新聞、テレビの取材の皆さんの来場で賑やかなスタートを切る事ができた。

午後4時から約1時間作品解説会が行なわれた。辻元大雲理事長から書道芸術院の書についてと、海外展等の解説をいただいた後、担当理事の後藤大峰先生、田守光昭先生に加えて、遠路来信下さった小竹石雲先生、下谷洋子先生、板垣洞仙先生、津田海仙先生、大井美津江先生から御自身の作品についてのコメントをいただき今後の書作へのヒントをいただくことができた。

その後、伊那市の隣り箕輪町にある「伊那プリンスホテル」にバスで移動、午後6時から祝賀懇親会が開催された。来賓には長野県現代書藝協会理事長で毎日書道展審査会員の西村水穂先生、同会常任理事の徳武香苑先生、中島龍風先生、中野水礪先生ご出席のもと、宮沢梅徑副支局長の開会のご挨拶に続き、辻元大雲理事長の挨拶に続き、西村水穂先生より心あたたまる御祝辞を賜り、また祝電披露のあと下谷洋子常務理事による乾杯のご発声で盛大な祝宴に入った。祝宴の中では地元の伊那節保存会の皆さんによる伊那節他、伊那地方の民謡の踊りが披露され大いに盛り上がった。楽しい時間はあっという間に過ぎ、小竹石雲常務理事の万歳三唱で会を閉じた。二次会も大いに盛り上がり、最後に伊那谷名物「ローメン」に舌鼓を打ち散会となった。前にも記した様に、地方に居ながらにして各分野の先生方の一流の作品を見られる機会は貴重な企画であり、今後も長く継続していただきたいと痛感している。



地元テレビ局の取材



遠路ご参集いただいた諸先生



小竹石雲先生の解説



辻元大雲理事長の解説



後藤大峰先生の解説



下谷洋子先生の解説



巡回展会場



解説に聞き入る参加者



祝辞を賜った西村水穂先生



下谷洋子常務理事による乾杯



小竹石雲常務理事による万歳三唱



伊那節保存会の皆さん



美人董氏墓誌銘 (隋・597年) ③

特別研究部臨書課題

Ⅱ (毎日展公募サイズ以内・縦横自由)

当該古典の左記掲載部分以外も可。

漢字研究部臨書課題

Ⅱ (半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

〔解説〕墓前に立てる墓碑に対して、石または磚(煉瓦の一種)に故人の姓名・経歴・事績などを記して墓中に納めたものを墓誌とよぶ。中国では後漢から始まり、魏・晋以後は墓碑がたびたび禁じられたため、墓中に納める墓誌が一般化した。北魏中頃には方形の石に文を刻むようになり、北魏末には蓋を伴い、蓋石に題字を、誌右に姓名・経歴を記し、末尾に韻を踏む銘を付す形が成立したと言われている。また蓋には精緻な文様を施す例も現れ、この形は隋・唐を経て遼・宋・元にも及んだ。(編集部)



(掲載図版原寸)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨 (押印のみも可)

巧。彈棊窮巾角之妙。妖容／傾國。冶咲千金。妝映池蓮。／鏡澄窓月。態轉迴眸之艷。／香飄曳裾之風。颯灑委迤。／吹花迴雪。以開皇十七年

古筆鑑賞

162

高野切第三種  
（伝紀貫之）

③

〈よみ〉

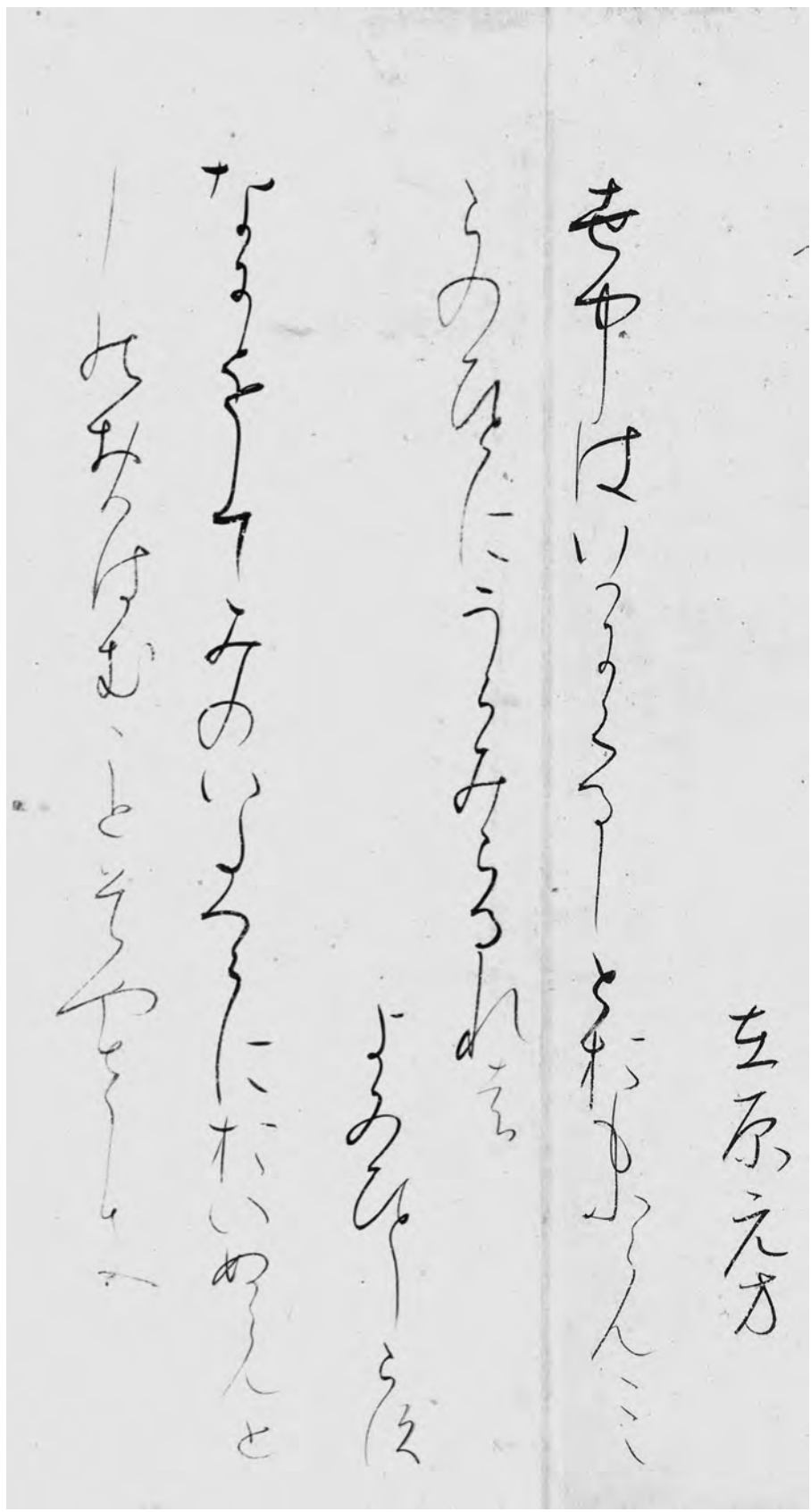
世中はいかにくるしとおもふらんこゝ  
らひとにうらみらるれば  
よみびとしらさ  
なにしてみおいたづらにおいぬらんと  
しのおもはむことぞやさしき

在原元方

〔解説〕「高野切第三種」は、平明な字形と暢達した筆線に特徴があり、筆者は三人の中で最も若い書き手であったと考えられている。同筆の古筆遺品として伝えられているものに、①「粘葉本和漢朗詠集」(宮内庁三の丸尚蔵館蔵)、②「近衛本和漢朗詠集」(陽明文庫蔵)、③「元暦校本万葉集卷第一」(東京国立博物館蔵)、④「蓬萊切」(五島美術館ほか蔵)、⑤「法輪寺切本和漢朗詠集」(東京国立博物館ほか蔵) などがある。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ可)

在原元方



(東京国立博物館蔵)

※掲載図版は85%縮小

かな研究部  
臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)  
別紙を裁断して貼付も可。半機紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部  
臨書課題

(毎日展公募サイズ以内・縦横自由)  
上記の掲載以外も可。

漢字規定 初段以上 【十月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

稲垣小燕選書



天實為之

よみ (天實に之を為せり)

書体 自由

### 習い方解説 (六)

稲垣小燕

天實為之 (抑風・北門)  
(天實に之を為せり)

己焉哉 己んぬる哉

天實為之 天實に之を為せり  
謂之何哉 之を何とか謂わん哉

ええしようがない、天がこのようにしたのなら、何とも言うようがない。

・書作のリズムについて

例えば「天」の4画目の払いのリズム、次の「亅」の1画目にゆっくりと移り「母」の横画は息の長い線で筆を運び「貝」の右縦画に厚味を出す。「為」の終画ではなめらかに横への動きとし「之」の最後は止めて呼吸を沈めて終ると言うように書作の中にも筆運びのリズムがあります。筆圧の強弱、速度、筆に含む墨の量、加えて音楽でいう音色にあたる墨の色、そのようなものがうまく結びついたところに音楽の曲が生まれるように、書作品も出来上ります。



漢字規定 秀級以下 【十月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

大野祥雲 選書



天高氣清

よみ (天高く氣清し)

書体Ⅱ楷書

## 習い方解説 (六)

大野祥雲

天高氣清

(天高く氣清し)

(宋玉)

秋の空は高くすがすがしい。

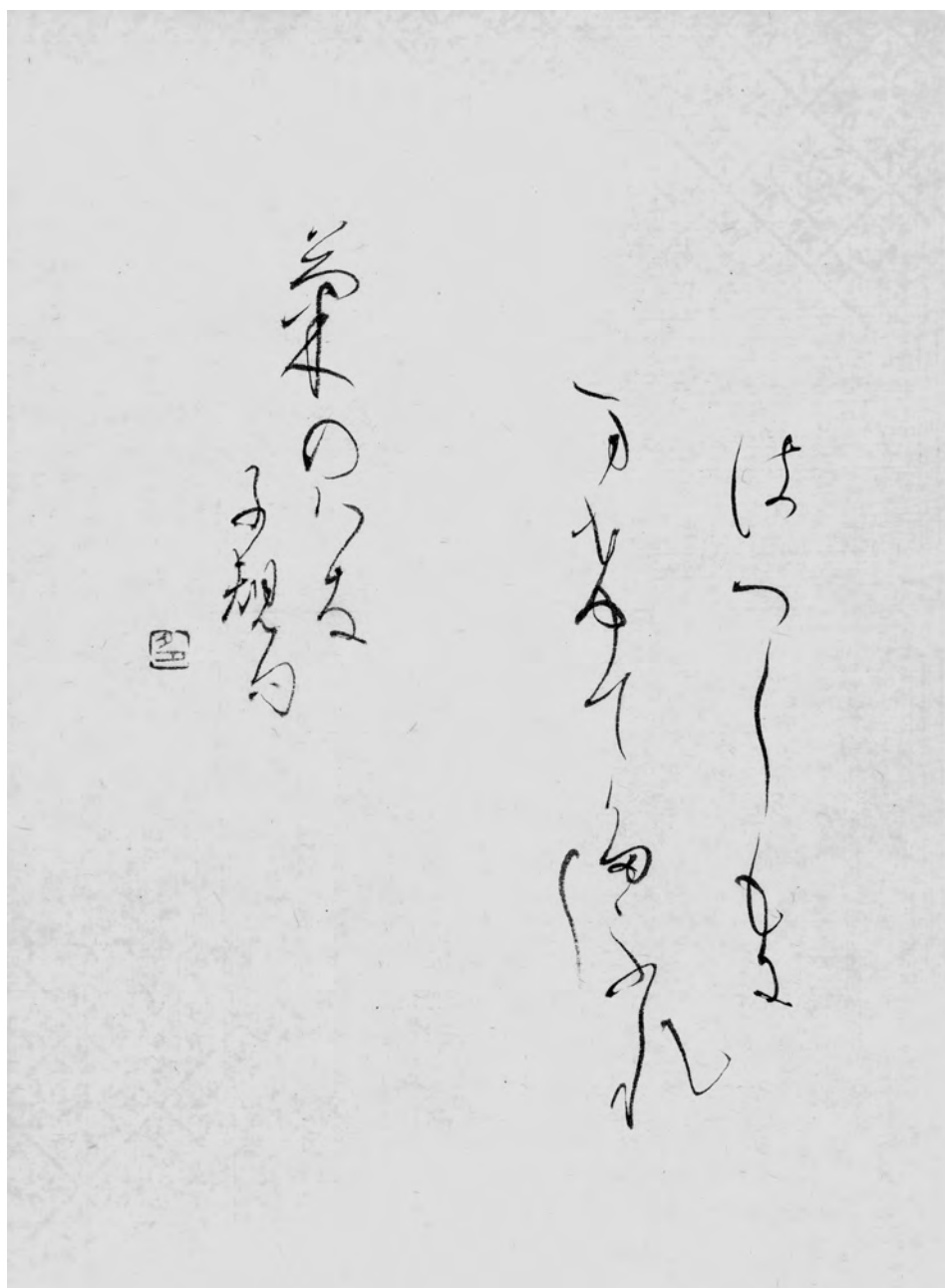
〔天〕 1画めは、人間の頭部を表しているので2画めより長く書くとの説もあるが、古典を見てもさまざま。

〔高〕 いわゆる書写体で伸びやかに書く。2本の縦画は柱と考へ、キリッと強く、中の横画も鋭く。下部は広い空間に「口」をしっかりと書き、周囲の白も大切に。

〔氣〕 旧字体で書く。筆先を自在に利かし、伸びやかに運筆。広い空間に「米」を安定よく収める。

〔清〕 「ㇿ」はポンポン分厚く書く。旁は線の大小、長短、間隔、接筆など考えて明るく。このように頭で考えただけでは、生きた文字は生まれません。練習第一。

かな規定 初段以上 【十月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可） 大辻多希子選書



よみ方 初霜(はつしも)に(尔)真(万)け(希)て倒(多)ふれし菊の花(八奈)

子規句

創作

## 習い方解説 (六)

大辻多希子

初霜(はつしも)に買(ま)けて倒(たふ)れし菊(きく)の花(はな)

(正岡子規)

文字数の少ない俳句を作品にする場合、墨付けは1度だけの時もあります。

墨量の多い所と少ない所を調和よく表現出来るよう構成を考えます。

各行の筆を速く運んだ部分と、ゆっくり書く部分との対照も気をつけます。それによって作品全体の趣が変わります。

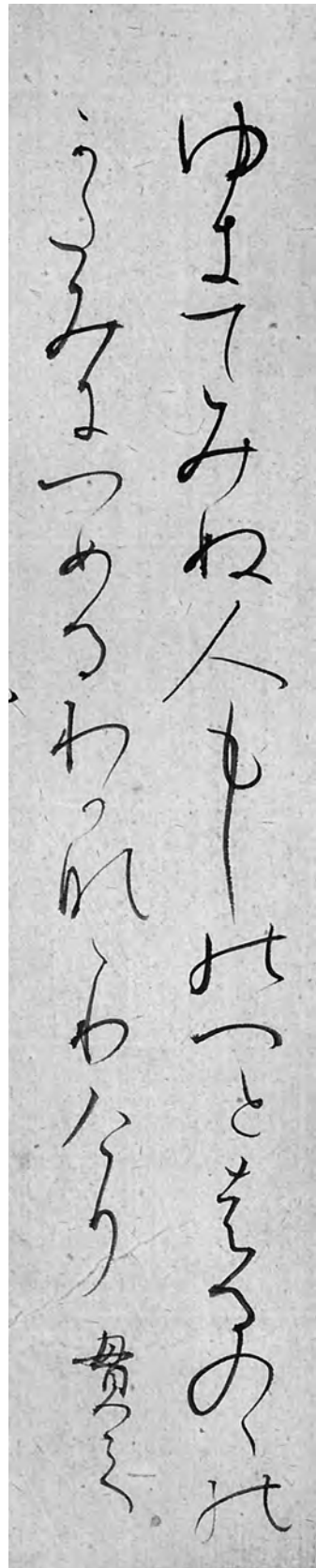
また、歌や俳句の語句には、切れ目があります。散らし書きとして書く時には紙の大きさや、行の構成によって一語が2つに分かれて次の行へわたることもあります。歌や俳句の内容にこだわり過ぎず、書く人自身がかなをどう表現しようとしているか、ではないでしょうか。

かな規定 秀級以下 【十月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1½ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

◎四月号より課題を「粘葉本和漢朗詠集」に変更いたしました。

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連続)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大111%)



よみ方

ゆき(支)てみぬ人もしの(能)べとは(者)るの(能)か(可)た(多)みに(尔)つめるわか(可)な(那)り(利)け(介)り 貫之

### 習い方解説 (三)

松村 くに子

こちらむけ我もさびしき秋の暮  
(松尾芭蕉)

創作がむずかしいと感じている方は、先ず手本の1字を変えてみるところから始めたら如何でしょうか。

例えば、「暮」の位置を上下に動かしたり、「くれ」とかなにするのも良いでしょう。

その作業を繰り返すことによって、創作力がだんだんと身につけて来ると思えます。

\*タテ形式に限る



よみ方 こち(知)らむけ我もさび(比)しき(支)秋の暮

創作



漢字条幅規定 初段以上 【十月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

辻元大雲 選書



歲月人間促 煙霞此地多 殷勤竹林寺 更得幾回過  
(歲月人間促り 煙霞此地多し 殷勤に竹林寺 更に幾回か過るを得ん)

書体||自由

出品券  
貼付位置

漢字条幅規定 秀級以下 【十月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

牧 泰濤 選書



閔曾孝弟程朱學 韓柳文章李杜詩 (王得録)

(閔曾の孝弟程朱の学。韓柳の文章李杜の詩。)

書体||自由

### 習い方解説 (六)

辻元大雲

担当最終回は横形式に五言絶句20字表現です。横形式作品は素敵ですが、なかなか難しさもあります。縦形式は行の流れ、通貫性が要ですが、横形式は左右の関係と行間のバランス、更に潤濁の変化を効果的に配置することを求められます。

参考例は太細の変化と連綿を少し取り入れてみました。色々工夫してみてください。

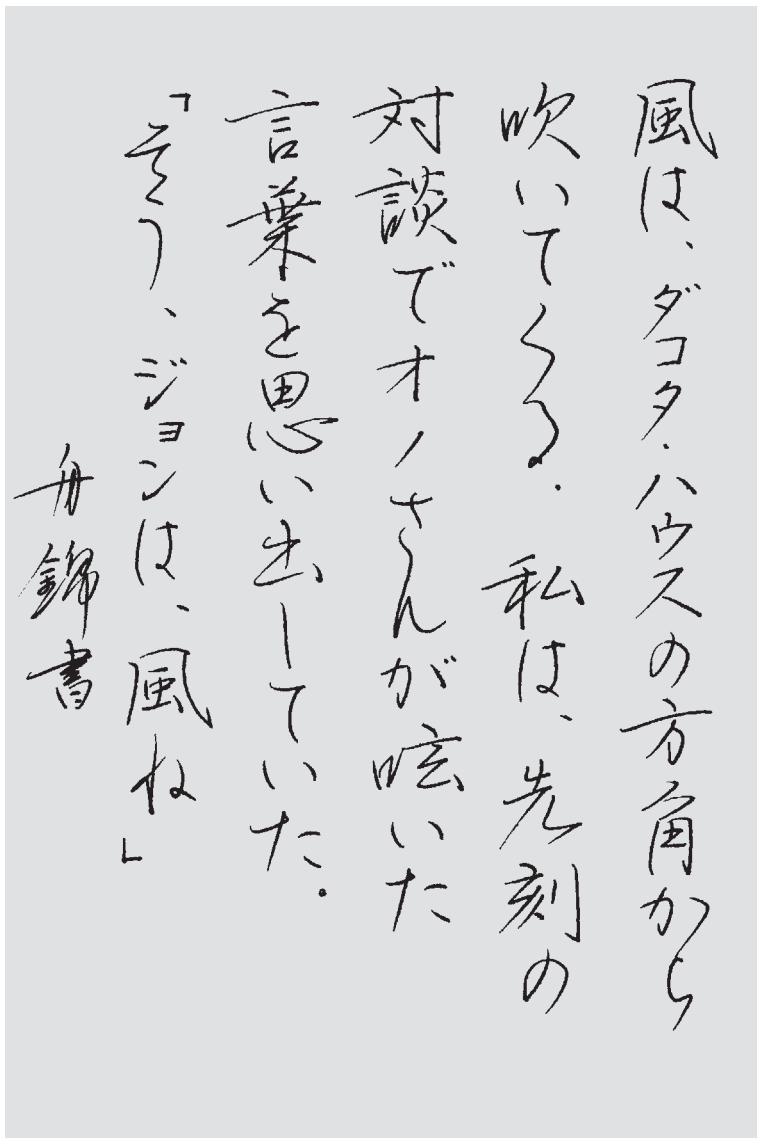
※ヨコ形式に限る

### 習い方解説 (六)

牧 泰濤

孝行や長者に柔順なことでは閔子、曾子。学問では宋の程子、朱子。文章では韓退之や柳宗元。詩では李白と杜甫。いずれもその道の第一人者を模範とするの意。

何ごとも、目標となる人物を胸中に抱き、近づくための努力をしたいものです。詩文は情感を込めた章法で。このような訓戒めいた文章は、楷書では私の方針です。



用紙Ⅱはがきの大きさ(14.8×10㎝)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体Ⅱ自由

## 習い方解説 (六)

川島舟錦

ペンに慣れること、継続することが自由な表現につながるものです。連綿線などを楽しむためには、仮名を導入することもひとつの方法ではないかと思えます。

癖がなく流麗で整った美しい文字、ゆったりとした書風、線の太細の変化を楽しみながらリズムにのって「高野切第一種」を小筆で書いたり、ペンで練習したり…。

ペンは、実に手軽です。そう、心地よい風を感じながら、枚数を重ねてみましょう。

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

ホー！作品  
各部総評

NO. 675

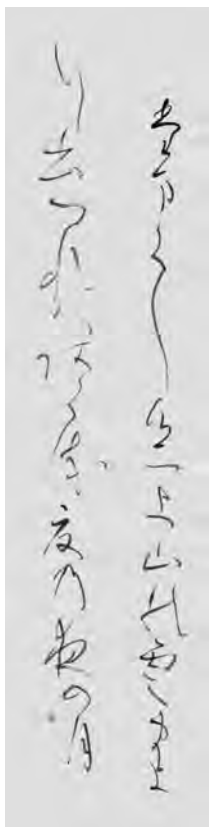
漢字部 師範 熊谷 桃華

直線を生かした明快な運筆で紙面に動きと広がりある表情を見せて妙。爽快な雰囲気心地よい。  
◎漢字部総評 上級者は書体自由であり多彩な表現が期待されるがややもの足りない。下級楷書表現を含め更に研究努力を。(大雲評)



かな条幅部 師範 大和由紀江

気負いのない書きぶり、自覚した用具の選択が見事に調和して格調が高い。静けさに魅了される。  
◎かな条幅部総評 変体がな具と類、漢字夏の誤字多出。「知っている筈」は要注意。疑問を持つ姿勢と座右の字典が大切です。(明十評)



現代詩文書部 特選 佐山 翠雪

潤いある墨色と見事な筆の開閉。上下の空間構成が一層作品を引き立てて美しい。  
◎現代詩文書部総評 墨色の美しさは作品を左右する。上級者ももう少し墨の研究を。(素雪評)



漢字条幅部 師範 奥村 美楓

素直な筆法が生み出した柔らかな線が美しい。字形も端正で、見る者を心穏やかにしてくれる作品。

前衛書部 特選 安藤 楊風

表現が大胆で玄妙な作だ。さらに線質に磨きがあればと。  
◎前衛書部総評 雅印によって、作品に光と支える力が変わるので押印に配慮されたし。(仙岳評)

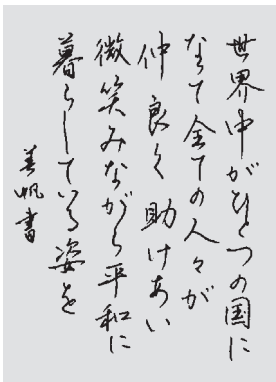


◎漢字条幅部総評 字形不正確な作が目立つ。字典で丁寧な校字が大切。全体の調和を考え文字を選び構想を練って下さい。(萬城評)



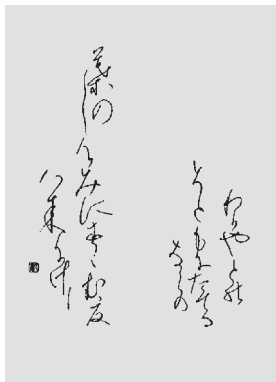
ペン字部 師範 鈴木 美帆

ペンの特性をうまく使い濃厚で力強い線質が魅力で目に止まった。雄大なスケールの字形も快い作。  
◎ペン字部総評 全体的に行間を意識せず煩雑な作が多数見受けられた。清楚な佇まいの作を目指したい。(龍雲評)



かな部 師範 小野寺久美

運筆に勢いを感じる鮮やかなかな。もう少し渴筆が欲しいが、気持をせた深い線の躍動に拍手！  
◎かな部総評 形だけを追ったものは魅力がない。動きや流れを理解した上で自分のリズムが出るまで書き込むことが必要。(洋子評)



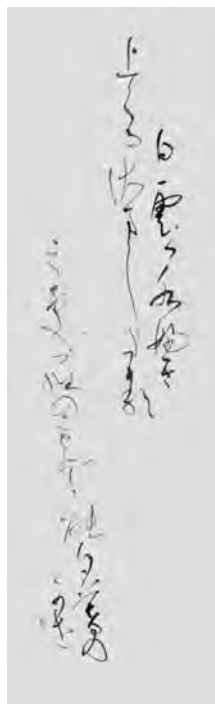


特別研究部優秀作品(特選)

かな

(奥田)

小林純風



180×53.5cm

小林純風書

「与謝野晶子のうた」

◆散らしの構成が魅力的。伸びやかに紙面を走る曲線は、思い切りが良い中に緻密さが伺え見事な作品に。(峰子評)

(大雲評)

◆軽快な運筆で紙面にリズム感を溢れさせて妙。切れ味よい筆致が小気味よさを發揮する。

(紅瑤評)

◆無理のない構成できっちりとなめる。後半部分の細線が良く、作品の緊張感を高める。(鄭街評)

(峰子評)

現代詩文書

(大雲)

奥村美楓



136.5×52.5cm

「青邨の句」

奥村美楓書

◆暢やかな筆致が爽やかで、清々しい気分を漂わす作。微妙に現れる破筆が効果的で自然。(大雲評)

(大雲評)

◆余白のバランスが最高の。が3つも有るのにそれを感じさせない工夫見事。2行の字形の大小がうまく呼応。(峰子評)

(峰子評)

◆1行目の自然な書き出しで2行目に展開する。2行目の動きが多少寂しかったか?更に精進を。(鄭街評)

(鄭街評)

◆暢達した線、おおらかな筆致が温かさと安定感を醸している。行間の余白が明るさを感じさせ、爽やかで格調高い作となった。(紅瑤評)

(紅瑤評)

漢字

(二葦社)

中村一琴「泰而不驕」



175×42cm

中村一琴書

◆4字句の篆書作品。潤渾見事に表現し余白の美しい作品に仕上がる。今後は多字数にも挑戦されたら。(鄭街評)

(鄭街評)

◆1字目の泰の結体が楽しい。伏せるような横画の筆さばきはそれぞれの字の中で主張し充実。(峰子評)

(峰子評)

◆篆書による4字句表現は2本連筆による破筆の効果を生かし、リズム感ある作となった。雅印あれば。(大雲評)

(大雲評)

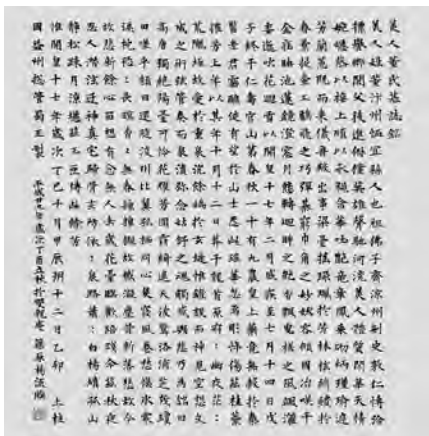
◆文字造形に工夫を凝らし、余白を活した斬新な篆書作品。巧みな筆さばきから生まれるリズムが心地よい。(紅瑤評)

(紅瑤評)

臨書 (うるいど)

篠原楊流

「美人董氏墓誌銘」



篠原楊流臨 59×59cm

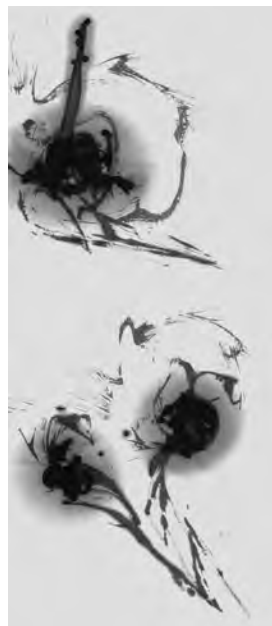
◆日頃から細字学習の経験を生かして、美しき正確な臨書作。やや重たさが感じられる。更に努力を。  
 (大雲評)

◆先ずは筆者の気合を感じる。洗練された細字、統一感溢れる墓誌銘は立体感を感じる作品に仕上がる。  
 (鄭街評)

◆原碑の形態を忠実に臨書した努力作。引き締まった線質ながらも、字形の整った穏やかな書風の特徴を正確に捉えている。  
 (紅瑤評)

◆美しく仕上がった臨書作品である。線質は謹厳にして、字間・行間も整備され感服。  
 (峰子評)

前衛書 (秀恵) 阿部雅悠 「花火」



阿部雅悠書

135×59cm

◆何より墨色が印象的で、滲みと飛沫が美しい。たっぷりとした余白が明るく爽やかな雰囲気を感じさせる快作。  
 (紅瑤評)

◆宿墨による広がりあるにじみが核となる基線を効果的に際立たせ、立体感ある印象的な作。  
 (大雲評)

◆冴えた墨色、にじみも非常に美しく、題名「花火」がびつたり当てはまる現代感覚溢れる秀作である。  
 (鄭街評)

◆3つの滲みの位置が上手くバランスを取り作品を魅力的に。木の枝のような直線も効果を与えている。  
 (峰子評)

現代詩文書 (麗澤) 秋山之扇 「黄昏」



秋山之扇書

58×178cm

◆2行毎の集団を中央部3連の盛り上がりで見せる。序破急を心得た構成力、粗密の変化で安定する。  
 (大雲評)

◆5ブロックに分け、全体を楕円形にふんわりとまとめた。自然な流れで心地良い雰囲気醸し出す。  
 (鄭街評)

◆上部を山型に下部を船底型に。作品に明るさを与えるため2行ずつの構成は見事に成功を収めている。  
 (峰子評)

◆濃墨、超長鋒から生まれる線質が豊かな表情を見せ、空間構成も美しい。中央の盛り上げと後半のまとめが巧み。  
 (紅瑤評)

千葉 猪又 理局 「かな」	大雲 鷹山 美梢 千葉 竹浪 叙舟	英峰 佐藤 桂香 池田 沙静	白珠 相内 珠莉 相内 珠莉	漢字の部 「漢字」	蓮紅 大友 紅蓉 白珠 工藤 史音	蒼風 笹木 蒼風 青蓮 鮎名 空心	山王 鈴木 春江 容洲 阿部 邑里	八街 熊谷 桃華 開北 米谷 桃光	大雲 長島 櫻雨 恵雅 板橋 雅邦	前衛の部 「前衛」	AI 藤村 昌子 現代詩 「現代詩」	大雲 江本 興舟 もく 森田 藤谷	創作の部 「漢字」	漢字の部 「漢字」	前衛の部 「前衛」	現代の部 「現代」	かなの部 「かな」	創作の部 「創作」
86点	24点	24点	26点	24点	24点	24点	24点	24点	24点	24点	24点	24点	24点	24点	24点	24点	24点	60点

漢字研究部  
(美人董氏墓誌銘)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



安藤 楊風

◎漢字研究部総評

今回は課題の1ページを総て臨書する細字の作品が多く寄せられました。この美人董氏

漢字研究部 特選 安藤 楊風

右払いの用筆や、横への広がりある横画等法帖を詳細に見て表現し、かつ、大胆に運筆している点、見事な臨書作品です。また、余白も明るく生き生きとし、品格を備えています。

墓誌銘の用筆や結体は非常に繊細で、線一つとってみても変化や抑揚に富んでいます。この特徴を細字で表現するのは極めて難しいと思いますが、法帖に忠実な作品も数多くありました。その反面、単に多くの文字を並べただけ、と感ぜられる作もありました。また、大字の作品には造像記のような結体と筆法の作品も少なからずあったのは残念でした。

美人姓董汴州  
恆宜縣人也祖  
佛子齊涼州刺  
史敦仁博

佛子齊  
涼州刺

美人姓董汴州恆  
宜縣人也祖佛子  
齊涼州刺史敦仁  
博洽標舉鄉

祖佛子  
齊涼州

美人姓董汴州恆  
宜縣人也祖佛子  
齊涼州刺史敦仁  
博洽標舉鄉

英併  
雄僮

美人姓董汴州恆宜縣人也祖佛子齊涼州刺史敦仁博洽標舉鄉父後進併僮英雄聲馳河沈美人體質閑華天情婉總恭以

美人姓董汴州  
恆宜縣人也祖  
佛子齊涼州刺  
史敦仁博洽標

美人姓董汴州  
恆宜縣人也祖  
佛子齊涼州刺  
史敦仁博洽標

美人姓董汴州  
恆宜縣人也祖  
佛子齊涼州刺  
史敦仁博洽標

美人姓董汴州恆  
宜縣人也祖佛子  
齊涼州刺史敦仁  
博洽標舉鄉

美人姓  
董汴州

祖佛子  
齊涼州

併僮英  
雄聲馳

恆宜縣  
人也祖

英雄聲  
馳河

美人姓董汴州  
恆宜縣人也祖  
佛子齊涼州刺  
史敦仁博洽標

也祖  
佛子

美人姓  
董汴州

恆宜縣  
人也祖

祖佛子  
齊涼州

美人姓董汴州  
恆宜縣人也祖  
佛子齊涼州刺  
史敦仁博洽標

美人姓  
董汴州

併僮  
英雄

弘竹李優清紀  
幸鳳名香麗夫

一雅睦美美春  
葉悠心子艸峰

郁純陽桃鳳弘  
芭平光李雪子

麗彩永淳信美  
流華篁泉溪梢



かな研究部 (高野切第三種)

選評 佐藤希雲

今月のホープ作品

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

あつらひむらぎのつらやうな  
つらやうなむらぎのつらやうな  
むらぎのつらやうなむらぎのつらやうな

下津裕美

丁寧(とんじん)に形をよく取って確実に臨書してきます。連綿の呼吸もしつかりと観察できています。太い線をもう少し強調するとさらによくになります。 ◎かな研究部総評 「いへもがな」の意連に注意が向かない作が多く残念。「いとふ」の「とふ」は虫食いですから、あえて線を離す必要はありません。観察が大切です。

かな研究部 特選 下津 裕美

直葵 芝香 郷子

幹花 紀江 源生

千恵 嘉 美峰

里洋 香 舟子 美

かな研究部成績表

Table with columns for names and kanji characters. Includes a '特選' (Special Selection) section for 下津 裕美. Lists names like 高澄正, 八登春, 大正街, 水雲海, etc., and their corresponding kanji characters.

選外 174名氏名略